

宇都宮空襲戦災殉難者追悼法要



開催概要 (平成22年度)

歳時名：宇都宮空襲戦災殉難者追悼法要

会場：祥雲寺

(JR宇都宮駅より関東バス バス停「県庁前」下車 徒歩10分)

日時：平成22年7月12日(月) ※例年7月12日開催

参列者数：約50名

連絡先：宇都宮仏教会 028-622-5719

式次第 (平成22年度)

1. 行事鐘
2. 式衆入道
3. 開会の辞
4. 献灯・献花
5. 三帰依文
6. 三奉請
7. 導師表白
8. 読経
9. 回向
10. 普回向
11. 追悼の辞 … 宇都宮市社会福祉協議会会長、宇都宮市遺族会連合会会長
12. 主催者挨拶
13. 焼香
14. 閉式の辞
15. 式衆退堂

宇都宮空襲犠牲者追悼「ふくべ灯籠流し」



※写真提供 宇都宮市平和記念館を作る会

開催概要 (平成22年度)

歳時名：宇都宮空襲犠牲者追悼「ふくべ灯籠流し」

会場：田川（幸橋～宮の橋）
（JR宇都宮駅 徒歩2分）

日時：平成22年7月17日（土） ※例年7月12日開催予定

参加者数：約1000人

連絡先：都合により記載せず

式次第 (平成22年度)

1. 紙芝居…「火の海になったうつのみや」上演 千波児童公園にて
2. 開会
 セレモニー
3. 黙祷
4. ふくべ灯籠流し開始
5. ふくべ灯籠流し終了

経緯

7月12日は何の日？

宇都宮市民として忘れてはいけない日です。65年前の昭和20年（1945）のこの日宇都宮が米軍の空襲を受けたのです。この空襲により、市街地の大半が焼野原と化し、620名以上の尊い命が奪われました。この惨禍を決して忘れることのないよう、今年も犠牲者追悼の「ふくべ灯籠流し」を田川で行います。

宇都宮市慰霊塔



基本情報

所 在：北山霊園
 住 所：栃木県宇都宮市岩本町483
 (JR宇都宮駅より関東バス バス停「北山霊園前」下車 徒歩10分)
 連 絡 先：宇都宮市 市民生活部 生活安心課 028-632-2222 (代表)
 建 立 者：宇都宮市慰霊塔建設委員会
 建 立 年：昭和45年9月20日

碑 文

昭和四十五年九月
 宇都宮市慰霊塔建設委員会
 委員長
 宇都宮市長 小池嘉子

説 明 文

明治以来國運は時に隆替したが遂に今日
 の繁栄を見たのは先人達が義勇奉公國難に
 處した賜である
 茲に郷土出身の戦歿者戦争引揚死者戦災
 死者並に公務殉職者の勲を讃えて感謝の
 誠を捧げ世界の平和と祖國の發展を祈念
 しこの聖地に慰霊の塔を建てその冥福を
 祈る

大谷平和観音



基本情報

所 在：大谷公園
 住 所：栃木県宇都宮市大谷町1198
 (JR宇都宮駅より関東バス バス停「大谷寺前」下車 徒歩2分)
 連 絡 先：宇都宮観光コンベンション協会 028-632-2445
 建 立 者：大谷観光協会
 建 立 年：昭和31年5月4日

※一般戦災死没者を含む

説明文

平和観音

大谷寺の南側に高くそびえる平和観音は、身丈26.93メートル(88尺8寸8分)の高さで、第二次世界大戦による戦没者の霊を弔い、世界平和を祈念するために、大谷観音の御前立として彫刻されたものです。

戦後間もない昭和23年9月より、当時の大谷観光協会と地元の人々の熱心な後援のもとに、大谷石の採石場であった壁面を利用し、南側の岩肌に観音像を刻みました。東京芸術大学教授・飛田朝次郎が彫刻を手がけ、その指導のもと、大谷町の石工・上野波造氏らが制作にあたりました。6年の歳月を費やした結果、昭和29年12月に完成しました。昭和31年には、日光輪王寺門跡菅原大僧正により開眼供養が行われ、それ以降大谷の顔としてそびえ立っています。

経緯

大谷平和観音

一個人の鎮魂の念から生み出されたのが大谷平和観音である。戦時中、大谷の地下工場に動員された群馬県出身の上野浪造氏は、戦後も大谷に居住して仏像彫刻を決意したといわれている。戦時中に亡くした2人の弟を含め、多くの戦争犠牲者に対する供養のためである。

昭和23(1948)年の起工式後、大谷観光協会や東京芸術大学飛田教授の協力の下、昭和29(1954)年についに完成し、昭和31(1956)年、日光山輪王寺から僧侶を招き開眼式が行われた。個人の鎮魂の念が地域を揺り動かし、やがて平和の灯火をともした典型的な例である。

枝病院門柱戦災記念碑



基本情報

所 在：宇都宮市総合福祉センター 斜め向かい側
 住 所：栃木県宇都宮市中央1-1-15
 （東武鉄道 東武宇都宮駅 徒歩5分）
 連 絡 先：都合により記載せず
 建 立 者：宇都宮平和祈念館をつくる会
 建 立 年：平成12年4月1日

説 明 文

空襲を語り継ぐ門柱

1945年（昭和20年）7月12日、宇都宮大空襲によって当時の市街地の大半が焦土と化し、この地にあった枝病院も焼け落ちてしまいました。

このみかげ石の門柱は、枝病院院長・枝全（たもつ）さん宅の玄関を支えていたもので「戦争の悲惨さを忘れまい」との枝さんの思いが込められ、現在まで大切に残されてきました。

2000年4月1日
 うつのみや平和祈念館をつくる会

